

I -1-11 歯科技工部

清水 尚
歯科技工部

1. 震災当日の状況と対応

地震を感じ、至急ガスの元栓を閉じた。地震による機器の転倒、損壊はなかった。铸造用電気炉の電源も切った。幸い勤務者7名中、地震による負傷者はいなかった。地震発生後に電源が非常発電に切り替わったため、技工作業を中止し、館内放送による指示を聞くために待機した。その後、午後4時に帰宅命令が出たため機器の電源を切り閉室した。

2. 震災後の状況と対応

3月14日は通常の勤務体制で出勤したが急患のみの対応となり、技工室のガスと暖房は停止し、通常の技工作業は困難な状況であった。

3月16日から3月22日まで自宅待機となり、その間の保安要員2名を決めた。連絡手段として各自が技工部全員に携帯電話番号とメールアドレスを伝えた。

3月14日から3月22日まで休診となり、救急患者のみ対応し、技工部での義歯修理受け付けは5件であった。